

2025年度版

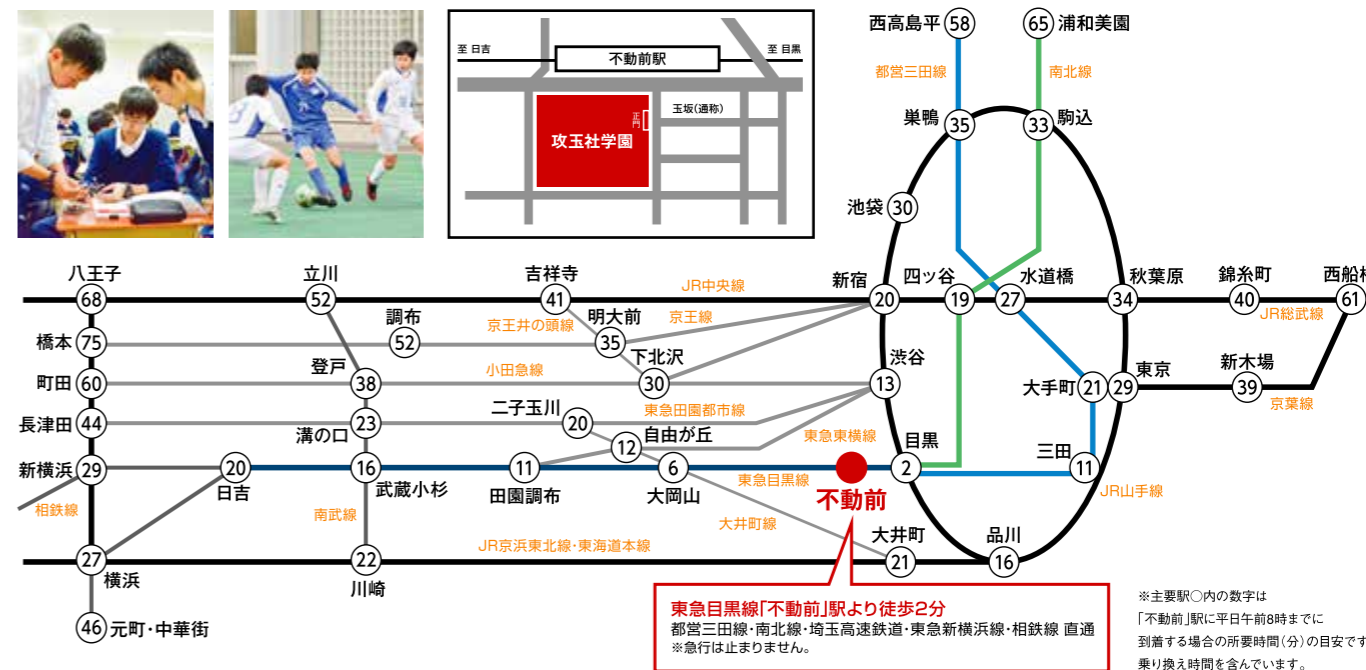
新たな航海へ――



Since 1863
攻玉社
 中学校・高等学校
 SCHOOL GUIDE 2025

攻玉社
 中学校・高等学校

〒141-0031 東京都品川区西五反田5-14-2
 TEL: 03-3493-0331 (代表)
 FAX: 03-3495-4004
<https://kogyokusha.ed.jp/>
 入試に関するお問い合わせは広報企画部まで
TEL: 03-3495-8160 (広報企画部)



ちよこつと column STORY OF GYOKUSAKA

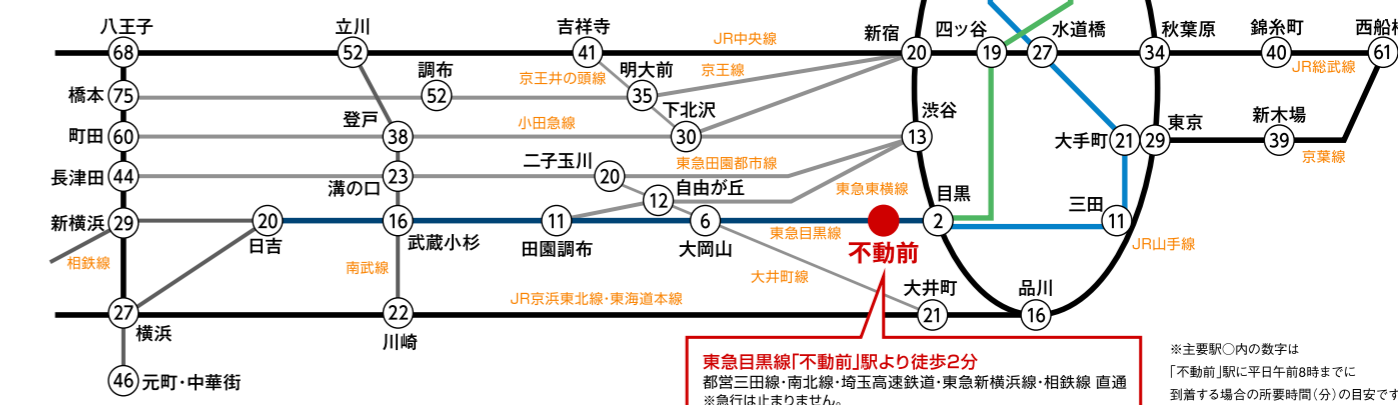
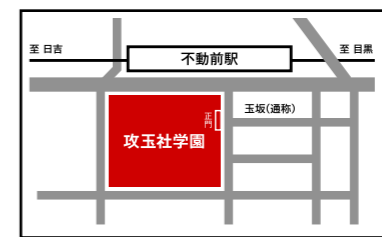
百年の玉坂物語

東急線不動前駅を南東に数十メートル進んだ最初の角を曲がれば、攻玉社学園の正門を真正面に臨む、通称玉坂(おおよそ100m)がある。攻玉社がこの地に選りおよそ百年。

この坂は数多の生徒の往來を見届けてきた。時代は遙かに下り、あたりは一変すれども、玉坂の頂に見える攻玉社は、いつの時代も変わらずぬ姿で、生徒達を迎え、送り出してきた。そしていつか、ここから巣立っていった攻玉社男子は、再びこの坂を訪れる時に想う。

変わらぬ母校へのノスタルジーと、この坂を往來したあの6年間の日々を――

Gyokusaka



まだ見ぬ海へ、漕ぎ出そう。



創立者、近藤真琴先生が謳った、
「誠意、礼讓、質実剛健」の精神を身につけた

攻玉社男子の多くは、やがて明治維新後の変革の時代に、

近代日本の礎を造った海軍軍人になっていきました。

彼らは激動の時代の中で、次代を創り得る

臨機応変さ、知性、先見性、粘り強さ、

そして責任感を有しており、海軍ではいつしか、

「スマートで、目先が利いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り。」

という標語が謳われるようになっていきます。

時代は下り、わが国に海軍はなくなっても、

近藤真琴先生が謳った攻玉社の精神と、船乗りの標語は、

今なお、攻玉社男子のアイデンティティとして、脈々と息づいています。

波の揺らぎで形を変えながら、果てしなく

広がる海のように、予測不能なこれからの時代。

大海原を見渡す広い視野と器を備え、数多の雲を潜り抜け、

彼方にのぼる太陽のような輝く未来に社会を導く――

そんな攻玉社男子を育む、まだ見ぬ海への新たな航海が、

ここから始まります。

数多の雲を潜り抜け、彼方に輝く太陽のもとへと導く、攻玉社男子の船出。

攻玉社のあゆみ



一八六三年(文久三年)

江戸四谷坂町烏羽藩邸内に蘭学塾を開く。

創立者、近藤真琴(こんどう・まこと)は

数学・航海術・測量術に秀でた蘭学者であった。

一八六九年(明治二年)

真琴、兵部省に出仕。

築地海軍操練所(のちの海軍兵学校)内に塾を移す。

塾名を「攻玉塾」とする。

一八七一年(明治四年)

芝新銭座(現・浜松町)の慶應義塾跡へ移転。

学科は航海・測量術・和・漢・英・蘭・数学が設定された。

一八七二年(明治五年)

文部省より学制が頒布され、私塾から学校として、あらためて開学した。学校の内容は塾則が定められるとともに、

幼年科の設置、教育課程の確立等、全般にわたって近代的

に充実・整備される。

なお、現在の校訓は、この塾則をもとにしたものである。

一八七五年(明治八年)

わが国最初の航海測量習練所を設置。

一八八九年(明治二十二年)

海軍を志願する者のために海軍予備科を設置。

これはのちに海軍中学校と改称され、やがて尋常中学校

に合併された。

一九一五年(大正一四年)

9月芝新銭座から、不動ヶ丘(現・品川区西五反田)に校舎

を新築して移転。丘上にそそり立つ白亜の鉄筋コンク

リートの校舎が生徒たちの新しい人間形成の場となる。

一九四七年(昭和二十二年)

学制改革により、新制攻玉社中学校発足。

一九四八年(昭和二十三年)

新制攻玉社高等学校発足。

一九六六年(昭和四一年)

6年一貫英才開発教育を始める。

一九九〇年(平成二年)

国際学級開設。

一九九五年(平成七年)

特別教室を収容する中層棟(現2号館)完成。

二〇〇三年(平成一五年)

新校舎(1号館)完成。

二〇一〇年(平成二二年)

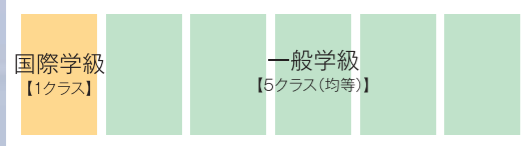
5・6年次のクラスを8クラス編成とする。

二〇一五年(平成二七年)

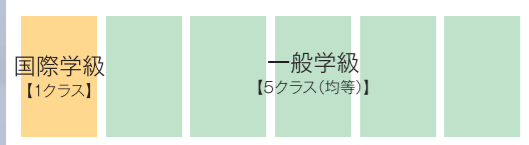
併設型中高一貫教育校に移行。

生徒の可能性を最大限に引き出す
独自のクラス編成

1年生【中学1年生】



2年生【中学2年生】



一般学級と国際学級の編成で、基礎学力を養成します。

自分の未来を描く—



未来の自分をつくる
チカラを育む

6年間の生活を見据えて、まずは攻玉社男子としての土台を築いていきます。学びへの姿勢や日々の心構えなど、攻玉社での6年間を通じて着実にステップアップできる基礎的な人間力を鍛えます。

DRAW THE FUTURE

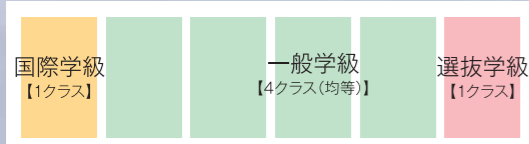
1~2年生

中学1年~中学2年

STAGE
1

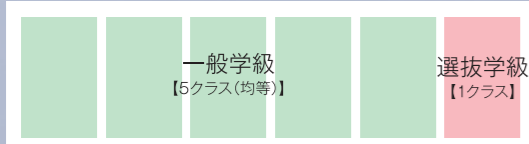


3年生【中学3年生】



選抜学級を設けて、学習意欲をさらに高めます。

4年生【高校1年生】



国際学級と統合し、新たな切磋琢磨を生み出します。

未来を生きるために—



未来に向けて戦える
意識と実力を蓄える

ステージ2では生徒一人ひとりの個の力を伸ばしていきます。自ら目標を据えて成功をつかみ取る自律心や、壁にぶつかった時にそれを乗り越える精神力・分析力を磨きます。

FOR THE FUTURE

3~4年生

中学3年~高校1年

STAGE
2



攻玉社男子を育成する

独自の
6年間

3ステージ
プログラム

5年生【高校2年生】



6年生【高校3年生】



進路に対応したクラス編成で、自己実現を図ります。

その先の未来へ向かって—



未来を見据え仲間とともに
絆や人間性を育む。

攻玉社男子としての人間形成の総仕上げのステージです。大学進学、そしてその先の将来を明確に意識して、仲間と切磋琢磨しながら、社会に出た後も活躍できる、人間の核となる部分を磨き上げます。

TOWARD THE FUTURE

5~6年生

高校2年~高校3年

STAGE
3



人格を育て、
未来の可能性を切り拓く。
大切な時期を、攻玉社で。

攻玉社では、6年間で2年ずつの3ステージに分割。各ステージごとに異なる独自のクラス編成や指導を施すことで、生徒一人ひとりの学習習慣や意欲、そして学力をスムーズに向上させ、攻玉社男子ならではの一本筋の通ったスマートな人格を形成します。



three stages program



入学式

攻玉社男子への道はここから始まる。

入学した生徒全員が、ここから始まる6年間に有意義に過ごし、立派な攻玉社男子へと成長できることを願い、教職員・在校生一同より祝福と激励の気持ちを込めて式典を開催します。



林間学校

心身の健全な発育のために。

豊かな大自然に囲まれた長野県の志賀高原で実施。自然の中でのさまざまな活動を通じて、仲間との絆を深めながら自律する力と協調する力を磨きます。



新入生オリエンテーション

6年を共に過ごす仲間との出会い。

入学したての生徒に、校史・建学の精神・学校生活の過ごし方などをレクチャー。仲間づくりのきっかけとなる多彩なプログラムも実施します。

1年生の
主な行事

1年生 可能性を見出し
自信を引き出す

小 学校時代の仲の良い友人たちと別れ、中学校という新たなステージへ進む時。生徒たちは激変した環境や人間関係の中で戸惑いを感じています。攻玉社ではこの頃の生徒たちに親身に接し、きめ細やかな指導と教育を施すことでこのギャップを丁寧に埋めていきます。そして、授業、クラブ活動、行事などバランスの取れたカリキュラムのなかで、基本的な学習習慣や生活習慣の確立を促します。正しい習慣を身につけさせ、生徒の将来への伸びしろを引き出していくために大切な準備期間です。



STAGE
1

子供から大人へ
体も心も変わる時
13歳~14歳

DRAW THE FUTURE

「児童」から「生徒」へ呼称も変わり、思春期が始まるこの年齢。しっかりとした人格を形成し、学習習慣を身につけるには非常に重要な期間です。攻玉社では、まだまだ成長途中の生徒をしっかりと導くための親身な指導を行います。



2年生 知的好奇心を高め
自ら学ぶ姿勢を持つ

子供 供らしさも少しずつ抜けていき、見た目もグッと大人っぽく成長するこの時期。生徒の内面でも目まぐるしい変化が起きています。思春期の到来とともに、自我の形成が進むこの時期こそ、ねじれた曲がり曲がりすることのない、まっすぐな人格を形成するためにしっかりとした指導が重要です。攻玉社では、1年生のうちに身につけた学習習慣・生活習慣をさらに盤石なものにするともに、自ら進んで学び、考える力を身につけてもらうための指導を行います。さまざまな出会いや知識に触れる中で好奇心を育み、学ぶことへの楽しさを伝えることで、勉強の継続性、学力の向上へ結びつけていきます。



2年生の
主な行事

臨海学校

自然の中で学ぶ体験学習。

関東近郊の海辺もしくは湖畔で、水泳や自然観察など趣向を凝らしたアクティビティを体験。都会生活から離れて、たくましくなって帰ってきます。



夏期特別講習・補習(1~2年) 自由研究発表会(1~2年)



**2学期を円滑に
スタートさせるために。**

夏期休暇中(8月下旬の5日間)に、国語・数学・英語の3教科について特別講習を実施。努力不足の生徒は指名制で補習も行います。



**50年以上続く
伝統行事。**

自分でテーマを決め、夏休み中に取り組んだ調査・研究の成果を2学期初めに発表します。半世紀前から行われている「アクティブラーニング」です。





校外授業(1~3年生)

歴史や文化を学び、教養を高める。
学年ごとに美術館、博物館、歴史的建造物や文化施設などを訪問。さまざまなものに直接触れることで教養を身につけ、人間力を高めます。



選択講座(総合的な探究の時間)

生徒の興味、関心に応じて多彩な講座を用意。
選択講座では教科、科目ごとの授業で習得した知識を総合的に活用することを目的としており、レポートや小テスト等により評価します。また、講座は多岐にわたり、一人ひとりの生徒が興味・関心に応じて選択できるようになっています。



キャリアガイダンス講演会(3~4年)

OBを招き、“働くこと”について考える。
「働くことは何か」や「進路をどのように決定するか」などを3年生から4年生にかけて考えていきます。また、社会の中心となって活躍しているOBを招き、本校での思い出や進路選択のこと、また社会人としての経験談などを話してもらいます。講演後には質疑応答も行われます。

3年生の 主な行事

スキー学校

健康で強い身体づくりのために。
長野県北志賀竜王スキーパークなどで実施。ウィンタースポーツを通じて健全な身体づくりを目指します。



3年生 自ら考え行動する 意識を育む

公立校の中学生なら、受験や進路に大いに悩むこの時期。高校進学のためには受験勉強がない分、そうした負担やストレスは軽減されているはず。しかし、自動的に高校生へとステップアップするのではなく、さらに先にある目標を見据え、そこへと向かう道筋を描いて進級してもらうために、攻玉社では主体性を身につける指導を施します。社会人として活躍しているOBを招いて講演会を行うなど、キャリアについて考える機会を与え、生徒それぞれが具体的なビジョンを描くためのフォロー体制を築いています。



STAGE 2

教養と学力、そして
主体性を身につける
15歳~16歳

FOR THE FUTURE

ステージ1での2年間を経て、攻玉社での生活にも慣れ、学びへの基本的な姿勢も身につけてくる時期です。ステージ2では、主体性や自律性を大切にしながら、生徒それぞれの個性や強みを伸ばしていきます。

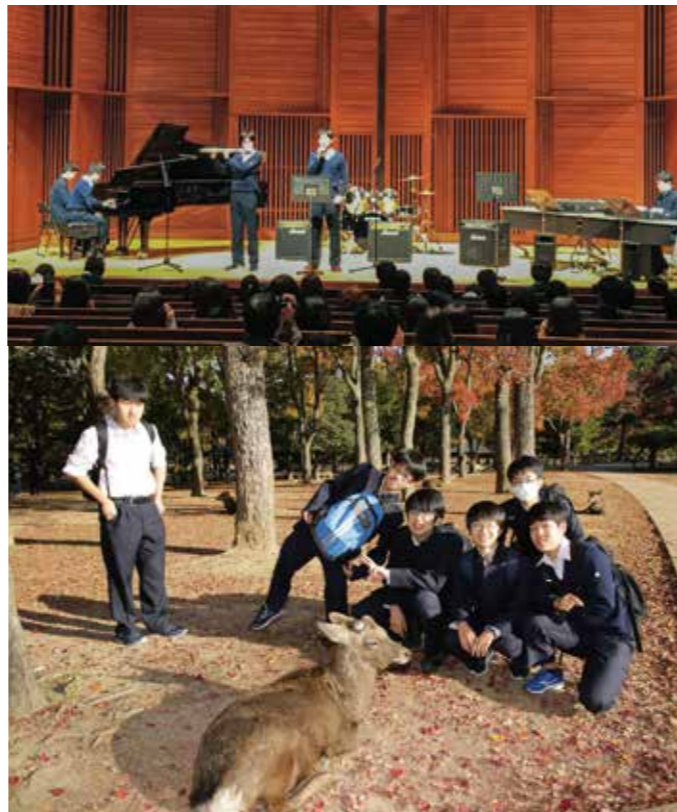


4年生 課題を見つけ 解決する力を鍛える

この時期、攻玉社では生徒の可能性をさらに高めていくために、自らの課題を発見・解決していくために必要な力を育む指導を行います。社会で活躍できる人材としての基礎力を身につけるとともに、5年生から始まる大学進学への準備に向けて、自分の目標・ビジョンを明確化させていきます。

中

学生から高校生へ、新たなステージへと羽ばたくこの年。中高一貫の攻玉社では、慣れ親しんだ仲間たちとともに、新たな3年間へ向けて踏み出すことができます。ここで育まれる絆と、親しい仲間と切磋琢磨して成長した経験はまさしく一生ものと言えるでしょう。



4年生の 主な行事

芸術科合同発表会

芸術に触れて、感性を高める。
芸術科目の集大成。
美術・書道それぞれの作品を展示、音楽では演奏を披露します。



修学旅行



大切な友達と 一生の思い出を。

三重・奈良・京都方面で歴史や文化に触れる5日間。仲間とともに最高の思い出をつくるイベントでもあります。

進路講演会(4~5年)



大学受験の最新情報を 専門家が解説。

予備校の講師等をお招きし、難関大学の動向や文系・理系・医系に分かれて講演があります。保護者も参加することができます。



5年生の
主な行事



第5学年対象講演会

将来を見つめる大切なひととき。

実社会で活躍する比較的若いOB(文系・理系)を招聘。将来設計の種とすべく「自己実現のためにいかに取り組んだか」「働くということはどういうことか」などキャリアに関する話を聴きます。



大学先輩に聞く会(5~6年生)

より確実に志望校に受かるために先輩たちからアドバイス。

大学合格を果たしたばかりの卒業生から合格体験談や勉強法を聞く機会を設けています。5・6学年のクラスごとに数名ずつの先輩がそれぞれ教室を訪問し、入試のアドバイスやホットな話題を直接聞くことができます。



5年生 リーダーシップや
協調性を身につける

輝 玉祭や体育大会、学友会クラブ活動などでリーダーシップを求められる学年です。さまざまなイベントで中心的な役割を担う経験を通じて、仲間とともに物事を成し遂げる実行力を伸ばしていきます。また、生徒それぞれの志望する進路に応じてクラス分けを実施。同一の目標を持つ仲間同士、刺激しあいながら伸びていく環境を用意しています。
攻玉社で互いに切磋琢磨しながら育んだ友情そのものが、この先さまざまなライフステージで役立つ、かけがえのない絆となるはずです。



STAGE
3

未来へ向かって
羽ばたく準備を整える

17歳~18歳

TOWARD THE FUTURE

志望校への受験対策はもちろん、生徒一人ひとりの人生を充実したものにするために、10年後、20年後を見据えた教育指導を実施。攻玉社男子としての人間力を高めます。



6年生 自分の可能性を
切り拓く力を高める

い よいよ最終学年。大学進学へ向けてスパートをかける時期です。攻玉社では進路指導室での指導を徹底し、生徒に各種情報を伝え、激励し、志望校の選択や進路先の決定の相談に乗っています。受験生にとって天下分け目と言われる夏休みには特別講習を開催するなど、自己実現へむけた生徒たちの挑戦をサポートします。大学に合格・入学することはゴールではなく更なる未来への出発であることも改めて伝えていきます。
生徒たちは、中学1年生から一緒に頑張ってきた仲間たちと共に、支え合い、励まし合いながら、攻玉社男子としての誇りを胸に未来へ向けて進んでいきます。



6年生の
主な行事



夏期特別講習(3~6年)

より確実な大学受験合格を目指して、生徒それぞれに適切な講習を。

夏期休暇中(7月下旬の10日間)に希望制で各教科さまざまな講習を開催し、弱点の補強・得意科目の伸長をサポートします。



卒業式

一人の攻玉社男子として新たな世界へ。

苦楽を共にした仲間と別れ、それぞれの思いを胸に新しい世界へ踏み出します。攻玉社男子としての人間力は必ず次のステージでも役立ちます。



地球的視野に立ち 未来を進む攻玉社男子を

グローバル化が急速に進む昨今、語学力や国際教養は欠かせない資質となっています。攻玉社では、より実践的な英語教育を施すことにより、世界で活躍できる人材の育成を目指します。

GLOBAL EDUCATION



国際学級 International Class

**独自のカリキュラムを用意——
帰国生を積極的に受け入れています。**

攻玉社では、国際社会で活躍できる人材を育てるために、1990年に国際学級を設立し、様々な文化背景を持つ帰国生を積極的に受け入れています。日常的に英会話が飛び交う国際色豊かな学校生活は、一般学級の生徒たちにも大いに刺激になっています。

3年間独立1クラス

国際学級はインターナショナル校、現地校、日本人学校などからの帰国生だけで編成されるので、日本の学校生活にソフトウェアが可能です。クラブ活動や学校行事では、一般クラスとの生徒と多く関わります。理科・社会の科目も、小学校時代の学習歴を考慮しながら基礎から学習します。中学受験で理科・社会を勉強していなくても安心して中学校の学習を始めることができます。



グローバル人材の育成に向けて—— 効果的な英語授業を実践しています。

一年次から英語の基礎教育を繰り返し実施。受験を見据えたステージ2・3で、実践的な読解力や表現力を養成。攻玉社は、生徒の一人ひとりの英語力を効果的に伸ばしていきます。



ネイティブによる英語授業

中学1・2年生に対して週に1時間、クラスを分割してネイティブ教師による英会話の授業を行っています。本場の英語に触れることで、ネイティブに近い感覚を身につけます。

少人数の分割授業

英語・数学・国語の3教科はレベル別の少人数分割授業を実施します。入学時に国語や算数が苦手でも、3年間かけて遅れを取り戻すことができます。英語は受験方式によって所属クラスが分かれます。英語受験の生徒は専用の取り出しカリキュラムで英語力にさらに磨きをかけます。国算受験の生徒は基礎レベルから丁寧に学習を積み重ねていきます。



英語暗誦大会(中学1〜3年)

中学1〜3年生の英会話授業の 일환として、英語暗誦大会を開催しています。クラスの代表がみんなの前で暗誦し、熱いスピーチ合戦が繰り広げられます。英語でコミュニケーションを取る場を設けることで、実践的な英語力を高めていきます。

海外研修

中学3年生と高校1年生の希望者には、ホームステイを兼ねた海外研修を実施しています。他国の文化や歴史、ライフスタイルなどを体験を通して深く知ること、国際的な教養や人間力を養います。



高校からは一般学級に

国際学級は4年次に一般学級と合流します。中学3年間のレベル別少人数分割授業などの効果的な教育により、高校入学後もスムーズに学習を進めていくことができます。5年次からは進学希望に応じた少人数のクラス編成となり、仲間と切磋琢磨しながら自己実現を図ります。

国際学級についての詳しい内容は
国際学級パンフレットや
学校ホームページをご覧ください。

大学進学はゴールではありません。自分が社会でどうありたいのかを考え、それを実現する手段として進学先を選ぶことが大切です。攻玉社では、入学後早い段階から卒業後の進学と、その先の未来を意識した進路指導を行うことで、生徒に目的意識を持った勉強を促しています。

「その先」を意識した6年間

多彩なプログラムで
キャリアイメージ形成と学力向上を
サポートします。

- 夏期特別講習
- 学力推移調査
- 外部模試
- キャリアガイダンス講演会(3・4年生)
- 大学先輩に聞く会(5・6年生)
- 進路講演会(4・5年生)
- 5年講演会



Career Design

年間進路指導スケジュール

	高等学校(4~6年生)	中学校(1~3年)
4月	大学先輩に聞く会(5・6年生)・外部模試(6年生)	学力推移調査(1年生)
5月	進路講演会 外部模試(4・5・6年生)	
6月		キャリアガイダンス講演会(3年生)
7月	夏期特別講習(4・5・6年生)	夏期特別講習(3年生)
8月		夏期特別講習・補習(1・2年生)
9月	大学入学共通テスト出願説明会 外部模試(4・5・6年生)	外部模試(1・2・3年生)
10月	進路講演会 外部模試(4・5・6年生)	外部模試(3年生)
11月	外部模試(6年生)	
12月	キャリアガイダンス講演会(4年生)	
1月	(大学入学共通テスト) 外部模試(4・5年生)	学力推移調査(2・3年生)
2月	(私立大学入試・国立大学前期試験) キャリアガイダンス講演会(4年生) 外部模試(4・5年生)	キャリアガイダンス講演会(3年生)
3月	(国公立大学後期試験)	

ありのままの自分でいられる場所

攻玉社は一見厳しい学校のように見えますが、本当はとても温かく生徒を人間的に成長させてくれる素敵な学校です。攻玉社での学校生活は案外自由なものでした。国際学級を中心として多種多様な生徒が集まり、互いの意見や価値観を尊重し合いながら学習できる環境が整っています。だからこそ、ありのままの自分をさらけ出して存分に攻玉社での6年間を楽しむことができました。また、男子校ならではの珍しい部活動も数多く存在し、必ず自分が本気で打ち込めるものが見つかるはずです。受験指導においても、先生方は熱心に私たちと向き合ってくださいました。的確な指導やアドバイスのお陰で苦手科目の克服に繋がりと、成績を大きく伸ばすことができました。

慶應義塾大学 法学部

榎本 晃大くん
ソフトテニス部・
英語ディベート部・
攻玉社ボランティア同好会



先生方に支えられ、友人と切磋琢磨した学校生活

私は攻玉社での6年間、様々な機会です先生方にお世話になりました。中学生の頃には生活習慣などの基本的なことを、また高校生の頃には大学受験を意識した学習に関することを親身に教えていただきました。私が鉄道研究部で部長を務めた際にも、クラブ運営や輝玉祭に関してサポートしていただきました。加えて、友人の存在も学校生活において大きな刺激となりました。部活動で輝かしい成果を残したり、優秀な成績を収めたりする同輩の存在によって、私自身も刺激を受け、より高みを目指すことができました。先生方、そして友人の存在によって実りのある6年間を過ごすことができました。

東京大学 文科一類

紺野 勇太くん
鉄道研究部



厳しいながらも頼りになる先生

私が攻玉社で過ごした6年間は本当に充実していました。今では数少なくなっている男子校という特性のある学校ですが、その特性を持つからこそ、楽しく高め合っている仲間たちに出逢えたと思います。入学したばかりの頃には先生に厳しく指導していただきました。当時は嫌になってしまっこともありましたが、今ではいい思い出であり、また、私たちが人として成長するための有難い優しさでした。この学校の先生の授業の質は非常に高いです。その先生方が作ってくれた教材は高度な学習のための知識が詰まっています。授業も楽しく学べるようなものを用意してくれていました。中学校、高校ともに楽しい学級生活を送ることができ、改めて充実した6年間でした。

東京工業大学 理学院

佐々木 敬清くん
サッカー部



人生を決める6年間で有意義に過ごせる環境

僕は、攻玉社での6年間を通して学習習慣を定着させたことで大学受験をうまく乗り越えることができました。大学受験に必要な知識だけでなく、今後生きていく上で必要となる生活習慣やマナー(時間や締め切りを守ることなど)も身につきました。中学では自由研究や卒業論文など、自分が興味のある分野を追究できる機会が多くあり、僕にとっては進路を決めるきっかけにもなりました。部活動や学校生活を通して、卒業後も仲良くしていきたいと思う大事な友達を作ることができました。今後の人生にとって重要な中高の年間で有意義に過ごすことができました。

東北大学 医学部

藪下 和慧くん
将棋部



主な学校行事

- 4 始業式
入学式
健康診断
新入生校外オリエンテーション
- 5 耐久歩行大会
道徳講演会
防災訓練
中間試験
- 6 芸術鑑賞
生徒総会
期末試験
- 7 終業式
1年林間学校
2年臨海学校
3～6年特別講習
- 8 夏期クラブ合宿など
1～2年特別講習
- 9 始業式
下校訓練
中学自由研究発表会
輝玉祭(学園祭)
- 10 創立者慰霊の日
体育大会
中間試験
4年修学旅行
- 11 1～3年校外授業
防災訓練
- 12 期末試験
終業式
- 1 始業式
3年スキー学校
- 2 中学校入学試験
4年芸術科合同発表会
中学英語暗誦大会
- 3 学年末試験
卒業式
修了式

体育大会

競技を通して仲間との
協調性や競争力を培います。

チームを組んでひとつの目標へ向けて挑戦する中で、人間関係の大切さを学びます。また、体育大会本番に向けての練習や準備を通じて強い心身、規律性を養います。生徒達も体育大会に懸ける想いや情熱は強く、競技はとても白熱し、毎年、さまざまなドラマが生まれます。体育大会を仲間と共に戦い抜いた後に得られる充実感や達成感も格別。仲間との絆もさらに深まり、勉強だけでは体験できない、学生生活ならではの特別な思い出を作ることができます。



耐久歩行大会

自然を満喫しながら、
持続力、持久力を養います。

横浜の多摩丘陵にある、こどもの国で実施します。中学生は16km、高校生は20kmを歩き、山林の豊かな自然に触れながら、壮健な身体と逞しい精神力を養います。また、普段は経験することのない長距離を歩き、ゴールした後の達成感を味わうことは、頑張ることの意義や楽しさを知るきっかけにもなり、受験勉強やクラブ活動へ粘り強さを生み出します。



青春を彩るさまざまな学校行事 攻玉社男子としての心身を鍛える

輝玉祭

想像力、発想力を磨き、
リーダーシップを身につけます。

毎年秋に開催される学園祭「輝玉祭」は、本校最大のイベントです。各種参加団体の趣向を凝らしたイベントや展示で大いに盛り上がり、本校の公開行事として毎年2日間で1万名以上の入場者を数えます。イベントや展示に関しては実行委員を中心に先輩、後輩が学年の垣根を越えて協力しあいます。企画・運営共に生徒が主体となつて行うことで、自主性やリーダーシップを養います。また、当日は受験生・保護者向けの中学受験相談も行っています。





図書室
蔵書4万冊を数える図書室は、新聞や最新の雑誌類も豊富に取り揃えられています。



自習室
70名分の個別ブースが用意されており、放課後などの自学自習に自由に利用できます。



物理実験室
物理の授業やクラブ活動で使用します。



充実した教育施設 生徒に最高の学習環境を



化学実験室
化学の授業やクラブ活動で使用します。



生物実験室
生物の授業やクラブ活動で使用します。動植物の実験や観察を行います。



地学実験室
地学の授業で使用します。



グラウンド
授業で使用されるほか、昼休みには生徒たちに開放されます。放課後には運動部を中心としてクラブ活動に使用されます。



講堂
可動式の座席430席が格納されており、生徒集会や講演会など、行事や式典に使用されます。



生徒ホール
昼食時は食堂として使用。その他の時間はホールとして生徒に開放されています。



標本室
多数の動物や昆虫などの標本や模型類を陳列し、教材として使用しています。



家庭科教室
ガスレンジや流し台が完備されている家庭科教室は、調理実習の授業に使用されます。



情報科教室
情報・技術の授業で使用されます。



食堂(生徒ホール)
昼休みに生徒の憩いの場として開放されます。食事をしたり談笑を楽しんだり生徒がそれぞれの時間を過ごします。



体育館
バスケットコート2面分の広さがあり、体育の授業や部活動に使用されます。



室内温水プール
1年中泳げる温水プール。25メートルで6コースあります。



CALL教室
パソコンや映像機器を用いて英語学習ができる環境を整えています。



音楽室
音響設備も整えられ、グランドピアノをはじめ、さまざまな楽器類が備えられています。



美術室
絵画などの美術の授業や放課後のクラブ活動で利用します。



剣道場
冷暖房完備。中学3年次より武道の選択授業として剣道の授業が行われます。



柔道場
冷暖房完備。中学3年次より武道の選択授業として柔道の授業が行われます。



屋内運動場
雨天でも使用できる運動場として、体育の授業や放課後のクラブ活動で利用します。



書道室
書道の授業などで利用します。毛筆指導に対応すべく、筆を洗うための流し場が設置されています。



カウンセリングルーム
学校生活や人間関係での悩みを相談できる環境も完備しています。



学図資料展示室
創立者・近藤真琴先生の貴重な資料類のほか、本校にまつわる歴史的な資料や写真等が展示されています。



トレーニングルーム
運動部員たちの身体づくりのためにさまざまなトレーニングマシンを設置しています。



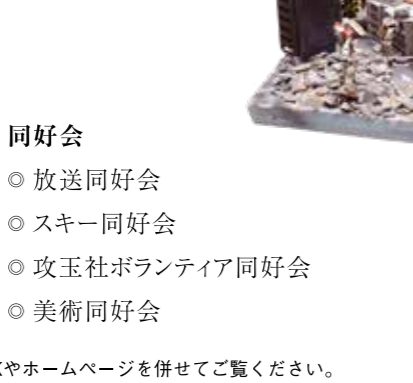
卓球場
卓球部の練習に使用します。全8台の卓球台を設置しています。



野球場
「鷗の木グラウンド(東急多摩川線・鷗の木駅下車・徒歩約7分)」本校占有の野球場です。野球部の練習に利用しています。

心技体を鍛えぬく 運動部

充実した施設環境のもとでクラブ活動に打ち込むことが可能。仲間と共に挑戦し、青春を彩り、強い身体と精神力を育みます。



感性を磨く 文化部

攻玉社にはさまざまな種類の文化部や同好会が揃っています。興味のある分野を思う存分追究し、知見を深め、感性を養うことができます。



- 愛好会**
- ◎ 数学研究愛好会
 - ◎ メディア研究愛好会
 - ◎ 囲碁愛好会
 - ◎ 地政学研究愛好会
 - ◎ インディアカ愛好会
 - ◎ AAA (Academic Ability Agency)
 - ◎ トレーニング愛好会
 - ◎ 麻雀愛好会

- 同好会**
- ◎ 放送同好会
 - ◎ スキー同好会
 - ◎ 攻玉社ボランティア同好会
 - ◎ 美術同好会

※クラブの活動状況につきましては、別冊DATA BOOKやホームページを併せてご覧ください。

Club Activities

「誠意・礼讓・質実剛健」 校訓の実践により 攻きをかける

本校は、創立者近藤真琴先生が1863年、四谷坂町の鳥羽藩邸に塾を開いたことから始まります。今年で創立160年を迎える、歴史と伝統のある学校です。近藤先生は、50年先の日本を支える人材の育成に志を立て、「和魂漢洋才」を唱え、後進の教育に心血を注いで来られました。今でも、その精神は『攻玉社男子』の中に脈々と息づいています。

攻玉社の校名は、中国の最古の詩集「詩経」の一節である『他山の石以て 玉を攻（みが）くべし』に由来します。「周りから刺激を受けて自分の長所を伸ばす」という意味があります。そのために、校訓である「誠意・礼讓・質実剛健」を実践して、自らを攻（みが）いていきます。「誠意」とは、自分の良心に従い、相手の気持ちや立場なども斟酌（しんしゃく）；その時の事情や相手の心情などを十分に考慮して、程よく取り計らうこと）

し、誠実に対応できる力のことです。「礼讓」とは、相手に信頼され、好感を持って受け入れられるような礼儀を弁えた対応のことです。「質実剛健」とは、飾り気がなく、自身の能力や役割を弁え、出来る事と出来ない事をしっかりと決められる強き心を醸成することです。

6年間攻きをかけて成長した「攻玉社男子」は、少々のことではへこたれない逞しさを身に付けた、優しい青年に成長していきま。成長著しいこの6年間を一緒に過ごしましょう。



学校長 藤田 陽一

- 1960年8月 東京都出身
- 1979年3月 攻玉社高等学校卒業
- 1983年3月 専修大学文学部卒業
- 1989年4月 攻玉社中学校・高等学校 教諭
- 2019年4月 同校 高等学校教頭
- 2023年4月 同校 校長

攻玉社を創立したのは、福沢諭吉・新島襄・村正直らと並び明治六大教育者の一人とされる近藤真琴先生（1831年～1886年）です。幕末の動乱期にいち早く時勢を見抜いてオランダ語を学び、西洋近代の学問や技術に熟達。日本で最初のかな書き辞書「ことばのそ」や、翻訳SF小説の第1号「新未来記」は先生の手になるもので、学者としての幅広い活躍の一端がうかがわれます。

文久3年（1863年）。その教えを請う者たちの求めに応じて、近藤先生は江戸四谷坂町の鳥羽藩邸内の自宅に私塾（後の「攻玉塾」）を興しました。塾生は20名ほど。創立当初の攻玉塾は理数系の塾として、福沢諭吉の慶應義塾、中村正直の同人社とともに東京の三大義塾の一つに数えられました。この私塾こそが、以来1世紀半にも及ぶ本校の歴史の始まりです。「攻玉」とは、詩経の『他山の石以て玉を攻（みが）くべし』から引用したもので、これが本校の建学の精神です。

本校からは、近代日本へと発展する原動力となった幾多の人材が巣立ちました。太平洋戦

争の終戦時に総理大臣をつとめた鈴木貫太郎もその一人です。

関東大震災後の不動ヶ丘への移転、経済不況の中での経営改革、太平洋戦争時の空襲による被災など、その都度、時代の大きな困難を乗り越えて教育体制の整備を実現できたのは、その底流に「攻玉社」の伝統と近藤先生の建学の理念が脈々と生きていたからです。



創立者 近藤 真琴 先生 (1831~1886)

天保2年（1831年）に鳥羽藩士近藤家の次男として、江戸麹町の鳥羽藩上屋敷に誕生。早くに父を亡くすが、教育熱心な母から漢籍の素読を受けて育ち、成人してからは蘭学、数学、航海・測量術、兵学などのほか、独学で英語やドイツ語をも習得するなど、博学多才の士として我が国の教育界に大きな業績を残した。



近藤先生の手による日本で最初のかな書き辞書「ことばのそ」は今も本校の資料室に保管されています。

他山の石以て 玉を攻くべし

